

英語の have/be yet to 構文における 2つの変異形*

小泉 直

1. はじめに

英語には、(1)から(4)に示すように、統語的に「have/be + yet + to」という語の連鎖を含みながら、意味的にはその他の部分で述べられている行為や出来事がまだ実現されていないことを表す構文が存在する。

- (1) a. John has yet to eat dinner.
b. John is yet to eat dinner. (Harves and Myler 2014: 213)
- (2) a. The first snowdrops are *yet* to appear.
b. I have *yet* to find out what he wants. (Quirk et al. 1985: 579)
- (3) I have yet to see a better account than the one you proposed ten years ago. (Huddleston and Pullum 2002: 713)
- (4) We have **yet** to hear from the bank. (= We are still waiting to hear ...)
(Swan 2005: 567)

Harves and Myler (2014) (以下、H&M) は(1)が意味的に(5)とほぼ等しいと述べている。

- (5) a. John hasn't eaten dinner yet.
b. John didn't eat dinner yet. (Harves and Myler 2014: 213)

しかし、LDCE⁶はこの構文に対して(6)の例を挙げながら(7)のような解説を与えている。

- (6) a. I have yet to hear Ray's version of what happened.
b. The bank has yet to respond to our letter.
- (7) **sb/sth has yet to do sth** *formal* used to say that someone has not done something, or that something has not happened when you think it should already have been done or have happened.

従って、この構文は書き換え文である(5)よりも形式的で、しかも話題となっている行為や出来事がすでに実現していて当然であるにもかかわらず実現していないという含みをもつことになる。

本稿では、H&Mに従って、(1)から(4)に例示される構文を *have/be yet to* 構文、略して *yet to* 構文と呼ぶことにする。以下2節では、*yet* と文の極性との関係について考察する。3節では、*yet to* 構文には *have* を含む型（以下、*have* 型）と *be* を含む型（以下、*be* 型）の2種類が存在するが、両者に用法上の相違がないかを検討する。4節では、*be* 型に観察される特異な意味について論じる。5節では、*yet to* 構文にはなぜ *have* 型と *be* 型という2種類の変異形が存在するのかという疑問に対して可能な解決法を提示する。最後に6節では、*yet to* 構文の他に *have* 型と *be* 型をもつ構文について考察する。

2. *yet* と文の極性

(1)から(4)を見れば明らかのように、*yet to* 構文は否定的な意味が読み取れるにもかかわらず統語的に顕在的な文否定辞が現れていない。そこで H&M は、*yet to* 構文には否定極性項目の *yet* が用いられているのであるから、統語的に潜在的な（つまり、音形をもたない）文否定辞を含んでいる可能性があるとして、Klima (1964)が文否定辞の存在を確認するために提案したテスト ((8)を参照) を適用している。

(8) Klima (1964) Tests

Sentential negation exists in a clause if:

- a. It takes a positive rather than a negative tag question.

- b. It can be continued with a conjunct headed by *neither* rather than *so*.
- c. It can be continued with a phrase that begins with *not even*.
- d. It can be continued with a conjunct that contains *either* rather than *too*.

適用の結果は(9)と(10)に示す通りである。

- (9) a. *John has yet to eat dinner, *has he?*
 - b. John has yet to eat dinner, *hasn't he/doesn't he?*¹
 - c. *John has yet to eat dinner, and *neither has Mary*.
 - d. John has yet to eat dinner, and *so has/does Mary*.
 - e. *John has yet to eat dinner, *not even once*.
 - f. *John has yet to eat dinner, and Bill hasn't, *either*
- (Harves and Myler 2014: 219)

- (10) a. *John is yet to eat dinner, *is he?*
 - b. John is yet to eat dinner, *isn't he?*
 - c. *John is yet to eat dinner, and *neither is Mary*.
 - d. John is yet to eat dinner, and *so is Mary*.
 - e. *John is yet to eat dinner, *not even once*.
 - f. *John is yet to eat dinner, and Bill isn't, *either*.
- (Harves and Myler 2014: 219)

(9)と(10)から yet to 構文は Klima のテストに合格しないことがわかる。

H&M は、これに対して、フランス語では文否定辞の *pas* が削除された場合でも Klima のテストに合格すると述べている。Pas が存在する(11)と *pas* が削除された後の(12)を比較されたい。

- (11) Je ne sais (pas) ce qu'est l'amour.
- I PRT know (not) that what-is the love

‘I don’t know what love is.’

(Harves and Myler 2014: 220)

(12) Je ne sais ce qu’est l’amour. Olivier *non plus*.

I PRT know that what-is the love Olivier *neither*

‘I don’t know what love is. Neither does Olivier.’

(Harves and Myler 2014: 221)

H&M は、また、スペイン語でも文否定辞の *no* が削除された場合に Klima のテストに合格すると述べている。No が存在する(13)と *no* が削除された後の(14)を比較されたい。

(13) Juan **no** vino nunca. Maria tampoco /*tambien.

Juan NEG came never Maria *neither /*also*

‘Juan never came, neither did Mary.’

(Harves and Myler 2014: 222)

(14) Juan nunca vino, Maria tampoco /*tambien.

Juan never came, Maria *neither /*also*

‘Juan never came, neither did Maria.’

(ibid.)

以上の結果から、H&M は、*yet to* 構文には統語的に顕在的な文否定辞だけでなく潜在的な文否定辞も存在しないと結論づけている。²

しかし、H&M は、*yet to* 構文に現れる *yet* が否定極性項目であるということ的前提に議論を展開しているが、その扱いには注意が必要である。なぜなら、Quirk et al. (1985)が指摘するように、*yet* は意味的に *still* [‘even now’] に近い場合には肯定文にも生ずるからである。(15)と(16)を参照されたい。

(15) a. I can see him *yet*.

b. I can *still* see him.

(Quirk et al. 1985: 580)

(16) a. There’s plenty of time *yet*.

b. There’s *still* plenty of time.

(ibid.)

そうすると、*yet to* 構文に現れる *yet* を否定極性項目と見なさなければならぬ必然性はないことになる。以上の点を踏まえると、*yet to* 構文に見られる否定的な読みは文否定辞の存在とは無関係であり、「まだこれから～しなければならない」→「まだ～していない」という推論によって導かれると考えた方がよいと思われる。

3. *have* 型と *be* 型の相違

Yet to 構文の *have* 型と *be* 型に関して、H&M は(17)のように記し、両者の間には明確な違いがないとしている。

- (17) On the surface, there appears to be free variability with respect to the choice of *be* or *have* here. More specifically, it is not obvious that there are differences in interpretation with respect to the choice of *be* or *have* in this construction, at least for those who have both variants as part of their grammar.

(Harves and Myler 2014: 233)

また、伝統文法書や辞書を調べても両者の相違に言及した記述は見つからない。しかし、だからと言って、両者の間にまったく違いはないのであろうか。この点を明らかにするために、British National Corpus (以下、BNC) を用いて検索を行った。その結果、次のようなことが明らかになった。

- (18) a. 総出現数は、*have* 型が 1193 であるのに対して *be* 型が 158 で、*have* 型の方が圧倒的に多い。
- b. 動詞 *come* の出現数は、*have* 型が 30 (出現率 2.5%) であるのに対して *be* 型が 56 (出現率 35.4%) で、*be* 型における動詞 *come* の使用例が顕著である。
- c. 最上級の主語名詞句の出現数は、*have* 型が 0 であるのに対して *be* 型が 34 で、*be* 型における最上級の主語名詞句の使用例が顕著である。

(18a) については5節で改めて取り上げることとし、以下では(18b)と(18c)についてその理由を検討する。まず、最上級の主語名詞句と動詞 *come* の関係を調べていくと、ある興味深い事実が浮かび上がってくる。それは最上級の主語名詞句はほとんどすべて動詞が *come* の時に現れるということである。しかも、34ある最上級の主語名詞句のうち、*the best* が17例で最多であり、次に *the worst* の13例が続く。両方合わせると30例となり、最上級の主語名詞句の大多数が *the best* か *the worst* ということになる。また、比較級の主語名詞句も現れるが、*worse* の3例のみであり、やはり動詞はすべて *come* である。(19)から(22)に *the best* の例、*the worst* の例、その他の最上級の例、*worse* の例をそれぞれ挙げておく。

- (19) a. The best is yet to come, says Keegan. (BNC CBG 7553)
b. The best rugby, though, was yet to come stemming from a tigerish rally inspired by a local lad. (BNC A2E 142)
- (20) a. More than that, on the basis of the growing catalogue of evidence, the worst news may be yet to come. (BNC AN9 459)
b. All of us know that the worst is yet to come. (BNC CH2 4075)
- (21) a. After 4 a.m. on the morning of the twenty-seventh the eruption appeared to die down a little, but the grandest moments were yet to come. (BNC ASR 452)
b. But the most dramatic judicial intervention was yet to come. (BNC FRT 833)
- (22) a. But worse was yet to come, since from the late 1970s onwards commodity prices have steadily declined, reaching their lowest level for 50 years in the middle of 1987. (BNC HH3 8056)
b. It was a petty, spiteful and pointless war and worse was yet to come. (BNC CM1 1003)

それでは最上級もしくは比較級の主語名詞句はなぜ動詞が *come* の時に現れるのであろうか。1つの可能性として考えられるのは、*The best is/was yet*

to come. あるいは *The worst is/was yet to come.* という文が英語ではある時期から定型表現として定着し、その表現に基づいて他の最上級表現や比較級表現が派生的に生み出されるようになったというものである。参考までに *Corpus of Historical American English* (以下、COHA) を用いてそれぞれの文を検索すると表1と表2のような結果が得られる。

表1 *The best is/was yet to come.*

1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900
0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000
0	1	0	0	0	2	3	2	2	1

表2 *The worst is/was yet to come.*

1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900
0	1	1	1	1	1	0	4	0	3
1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000
2	6	1	1	2	4	6	3	2	3

以上の結果を見る限り、*the best* を含む文と *the worst* を含む文はいずれも19世紀から20世紀にかけて定型表現として定着していったと推察される。³ また、*worse* については、表3に示すように、*the worst* に比べて初出の時期がかなり遅いことから、*worse* が *the worst* に基づいて派生的に使用されるようになったという仮説は必ずしも外的外れではないと思われる。

表3 *Worse is/was yet to come.*

1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000
1	0	0	1	1	0	0	0	0	0

4. 意味の相違

1 節で、**yet to** 構文は意味的に、ある行為や出来事がすでに実現していて当然であるのにまだ実現していないこと、つまり「未実現」を表すことを述べた。この意味は **have** 型に関する限り特に問題はなさそうである。類例として、映画のシナリオに現れる例をいくつか見てみよう。英語の台詞とその日本語訳はすべて『スクリーンプレイ』から引用している。

(23) JFK

GARRISON: ... The American public has yet to see the Zapruder film. Why? The American public has yet to see the real x-rays and photographs of the autopsy. ...

(... アメリカの大衆はあのザプルーダーの 8 ミリ映画を見なければならぬのに、見ていないのです。なぜでしょう？アメリカの大衆は X 線写真や検死解剖の写真を見なければならぬのに、これも見ていません。)

(24) トレインスポティング (Trainspotting)

RENTON: (v.o.) Heroin makes you constipated. The heroin from my last hit is fading away, and the suppositories have yet to melt.

((画面外) ヘロインをやると便秘になる。最後にやったヘロインの効き目が切れてきた。しかし、座薬はまだ溶けていない。)

(25) エバー・アフター (Ever After)

DANIELLE: It is not fair, sire. You have found my weakness, but I have yet to learn yours.

(不公平ですわ。王子さまはわたしの弱みをご存じなのに、わたしの方は知らないのですもの。)

しかし、**be** 型になると意味がやや異なってくるように思われる。

(26) 評決 (The Verdict)

MICKEY: So what? The best is yet to come. Check the TV Guide.

They got our Dr. Towler on GBH this Friday: “The Healing Hand!
The Experts Speaks!”

(強気だな。まだ序の口だぞ。テレビ欄を見てみる。我がタウラー博士が今週の金曜日に GBH にお出ました。「病を癒す手！名医が語る！」)

(27) サンセット大通り (Sunset Boulevard)

JOSEPH: (v.o.) It was all very queer, but queerer things were yet to come.

((画面外) 何とも実に奇妙だった。だが、奇妙なことは、まだこれからだった。)

(28) 英国王のスピーチ (The King’s Speech)

BALDWIN: ... This was always Hitler’s intention. I am only very sorry to leave you in this great time of crisis. I am very much afraid Sir, that your greatest test is yet to come.

(... これがヒットラーのずっと狙っていたことなのです。この最大の危機の時に、陛下を残して去ることは誠に遺憾です。陛下にとって最大の試練がやがて訪れることを、大変危惧しております。)

次の(29)と(30)はそれぞれ『ジーニアス英和辞典 (第5版)』と『リーダーズ英和辞典 (第3版)』からの引用である。

(29) The best is yet to come.

(お楽しみはこれからだ[人生はまだまだこれからだ].)

(30) The worst is yet to come.

(最悪の事態はまだこれからだ、この程度ではすまない)

これらの例における yet to 構文は、「まだ～していない。」という否定的で消極的な意味を表しているというよりも、「これから～するはずである (するであらう。)」という肯定的で積極的な意味を表しているように感じられる。つまり、「未実現」ではなく「実現の期待あるいは予測」を表していると思われる

る。それでは be 型における yet to 構文になぜこのような意味が観察されるのであろうか。1つの可能性として、主語位置の名詞句に最上級や比較級が使われていることがあると思われる。まず「実現の期待」の意味であるが、「最善の～」とか「より良い～」という言葉を目にすれば、これから起こるかどうかわからないとしても、起こってほしいと誰しも願うはずである。そのため自然と中立的というよりは起こる方に傾斜した解釈になると考えられる。一方「実現の予測」の意味であるが、「最悪な～」とか「より悪い～」という言葉を目にすれば、不安感が生ずるとともに、あえてそこまで言うのであれば、起こることにそれなりの確信があるのだらうと推測するはずである。そのため、やはり中立的というよりはむしろ起こる方に傾斜した解釈になると考えられる。⁴

5. be 型の存在

Yet to 構文には have 型と be 型の 2 種類が存在することを見てきたが、それぞれの型を COHA で検索すると、次のような結果が得られる。

表 4 yet to 構文 (have 型)

1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900
1	23	50	53	46	62	57	73	61	90
1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000
71	98	91	98	119	172	195	242	347	413

表 5 yet to 構文 (be 型)

1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900
2	35	82	94	102	56	61	61	57	80
1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000
62	61	41	44	28	37	41	34	37	33

表 4 と表 5 を比較すると、20 世紀では have 型の使用例が急増しているのに

対し、be 型の使用例がやや減少傾向にあることがわかる。そのため、現代の英語だけに着目するならば、have 型が基本的で be 型が周辺的であるという印象を受ける。

それでは、yet to 構文にはなぜ have 型に加えて be 型も存在するのであるうか。1つの可能性として考えられるのは、「予測」の意味を表す be to 構文の存在である。次の例を参照されたい。

(31) The most severe weather is *yet/still* to come.

(Quirk et al. 1985: 143)

Quirk et al. (1985)は、(31)において yet もしくは still が付随すると未来の意味が特に強調されると述べている。そして、いずれの副詞を用いても、意味的に「来るという出来事がまだ実現していない。」という否定的な意味が暗示されると論じている。(31)を見てすぐに気づくことは、yet を選んだ場合には本稿で問題にしている yet to 構文ということになり、still を選んだ場合には to be 構文ということになるということである。また、綿貫他(2018)は、(32)の例を挙げ、have [be] still to~は have [be] yet to~とほぼ同義であり、しかも still は yet よりも実現しそうな意味を含むと述べている。⁵

(32) He has still [yet] to learn good manners.

(綿貫他 2018: 331)

参考までに、「have/be + still + to」という語の連鎖を含む構文（以下、still to 構文）の COHA での検索結果を以下に挙げておく。

表6 still to 構文 (have 型)

1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900
0	1	4	6	5	11	14	16	24	26
1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000
36	20	15	23	21	11	20	7	5	4

表7 still to 構文 (be 型)

1810	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900
3	21	41	39	38	54	36	47	45	50
1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000
55	55	49	56	52	33	29	29	22	21

以上の事実観察から、**yet** と **still** は使用数に相違があるものの **have** の場合でも **be** の場合でも使われることがわかる。従って、こうした副詞の並行的な使用と意味の近似性が動機づけとなって、「**be + yet + to + verb**」という語の連鎖が **have** 型の変異形として認知されるようになったとしても不思議はないと思われる。

6. 2つの変異形をもつ他の構文

実は、英語には **have** 型と **be** 型という2種類の変異形を許す構文が他にも存在する。それは (33) から (36) に例示する **have/be nothing/something/anything/everything to do with** 構文 (以下、**thing to** 構文) である。説明の便宜のため、(33)を **nothing** 型、(34)を **something** 型、(35)を **anything** 型、(36)を **everything** 型と呼ぶことにする。⁶

- (33) a. I have nothing to do with Maria Luisa's being hurt.
(BNC JY4 1553)
- b. He said this is nothing to do with the college.
(BNC KCT 13909)
- (34) a. That has something to do with the indefinable thing called talent.
(BNC A06 73)
- b. Well that was something to do with him apparently enough.
(BNC KC2 698)
- (35) a. I never had anything to do with the Co-op Women's Guilds or the Labour Party.
(BNC EG0 1372)
- b. I don't think these are anything to do with you.

(BNC KBH 1711)

(36) a. But sacrament has everything to do with the grace of God and
the faith of the church. (BNC KB0 860)

b. It's nothing to do with coming, it's everything to do with
intoxication, fresh-frenzy, reckless rampant effervescent fever.

(BNC A0L 1792)

それでは、**thing to** 構文ではなぜ **have** 型に加えて **be** 型も使われるのであろうか。この疑問に対しては現時点において明快な解答を導き出すことができないが、代わりに、解決の糸口となるかもしれない **yet to** 構文との共通点を以下に3つ指摘しておく。1つは **thing to** 構文も **yet to** 構文も形式的に「**have + * + to + verb**」という語の連鎖（*は任意の一語を表す）を含んでいるということである。もう1つは否定的な意味が関与しているということである。例えば、**thing to** 構文の場合は、BNC で検索すると、**nothing** 型が 756 例、**something** 型が 295 例、**anything** 型が 301 例、**everything** 型が 21 例で **nothing** 型の使用数が際立って多い。⁷ また **yet to** 構文もこれまでの議論から明らかなように、意味的にやはり否定的である。さらにもう1つの共通点は、母語話者（イギリス人）の判断によると、**thing to** 構文も **yet to** 構文も **have** 型の方が **be** 型よりも文体的に形式的であるということである。そのため、**have** と **be** は常に入れ替えが可能というわけではない。

7. 結語

本稿では、従来ほとんど注目されることのなかった **yet to** 構文を **have** 型と **be** 型という2つの変異形に注目しながら考察した。2節では、**yet to** 構文に見られる否定的な読みは文否定辞ではなく推論によって導かれると考えるべきであると主張した。3節では、**have** 型と **be** 型にはその使用頻度に顕著な差が見られること、また **be** 型を分析する際には定型表現の存在を考慮する必要があることを指摘した。4節では、**be** 型の一部の例に「実現の期待あるいは予測」の意味が観察されるが、この意味には主語名詞句における最上級や比較級の使用が大きく関わっていることを論じた。5節では、**be** 型が

have 型と yet や still といった副詞との共起を共有していることと意味が近似していることが動機づけとなって変異形として認知されるようになったことを提案した。最後の6節では、yet to 構文と2つの変異形を許すもう1つの構文である thing to 構文との間には少なくとも3つの共通点が存在することを示した。

注

*本稿は小泉(2017)の内容の一部を加筆修正したものである。

- 1 H&M は、have の範疇が何であるかについては母語話者の間で判断が分かると述べている。すなわち、母語話者によっては have を動詞と見なす者もいれば、助動詞と見なすものもいるということである。しかし、このような判断の相違は yet to 構文に特有の現象ではないことにも留意する必要がある。例えば、Langendoen (1970: 12)では次のような調査結果が報告されている。

(i) W: I have to go home now.

A: Don't I? 36 replies

Haven't I? 9 replies

Do I? 1 reply

- 2 以上の事実観察から、H&M は(1a)が(i)のような基底構造を成し、否定極性項目の yet が否定的な意味をもつ黙音の(silent)過去分詞 FAILED によって認可されると仮定している。

(i) John has yet FAILED [_{TP} <John> to eat dinner <yet>].

そして、(i)には移動規則が適用されて、埋め込み節から、John が主節の指定辞位置に、yet が認可子 FAILED の指定辞位置にそれぞれ繰り上げられるとともに、FAILED は指定辞に移動した yet によって黙音になると主張している。それゆえ、(i)の表示では、山型括弧が移動した要素の黙音のコピーを表すことになる。

H&M の分析は、yet to 構文がなぜ否定的な意味をもつかという疑問に何とか答えようとしている点である程度評価できるものの、彼ら自身が認めてい

るように様々な問題を抱えている。例えば、(ii)に示すように、動詞 fail はその不定詞補部で述べられている出来事が望ましい結果であることを要求するのに対し、yet to 構文ではこの点に関して中立的である。

- (ii) a. He is gravely ill, to be sure, but he has {yet/?failed} to die.
- b. The bomb has {yet/failed} to go off.
- c. Luckily, the air conditioning has {yet/?failed} to break down.

(Harves and Myler 2014: 232)

また、yet to 構文の have 型は、(iii)に示すように、動詞 fail を使って近い意味に書き換えが可能であるが、be 型は、(iv)に示すように、書き換えできるような述語が存在しない。

- (iii) a. John has yet to visit Paris. ⇒
- b. John has failed to visit Paris yet. (Harves and Myler 2014: 226)
- (iv) a. *John is failed to visit Paris yet.
- b. *John is failing to visit Paris yet. (Harves and Myler 2014:233)

従って、本稿では、問題が多いという理由から H&M の分析を考察の対象としないことにする。

- 3 (i)に示すように、この定型表現には動詞 come の代わりに動詞 be で終わる変異形も存在する。
 - (i) a. “The best is yet to be, Ann! The best is yet to be!” (BNC CB5 1832)
 - b. Although much had been achieved by 1974 Barrett argued that “the best is yet to be.” (BNC GVW 651)
- 4 主語位置の名詞句に最上級や比較級が用いられていない場合には、通常の「未実現」の意味になると考えられる。
- 5 Quirk et al. (1985)でも、yet が用いられる場合と still が用いられる場合とでは含意がやや異なると述べられている。例えば、(ia)と(ib)を比べると(ib)の方が目的が達成される可能性が高いと報告されている。
 - (i) a. I have yet to meet him.
 - b. I have still to meet him. (Quirk et al. 1985: 581)
- 6 BNC で検索すると、have 型では have と to do with の間に much, little, a lot も相当数現れる。しかし、much と little については be 型が見つからない。

7 COHA で検索すると、thing to 構文の be 型の中では nothing 型が最も早く出現し、1860 年代に次の 2 つの例が見つかる。

- (i) That's nothing to do with it. (COHA 1860 FIC)
- (ii) He says it's nothing to do with us. (COHA 1861 FIC)

参考文献

- Harves, S. and N. Myler. 2014. "Licensing NPIs and Licensing Silence: *Have/Be Yet To* in English," *Lingua* 148, 213-239.
- Huddleston, R. and G. K. Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Klima, E. 1964. "Negation in English," In J. Fodor and J. Katz eds., *The Structure of Language*, 246-323. Englewood, NJ: Prentice-Hall.
- 小泉直. 2017. 「英語の have/be yet to 構文について」『外国語研究』第 50 号, 97-111.
- Langendoen, D. T. 1970. *Essentials of English Grammar*. New York: Holt, Rinehart and Winston.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Swan, M. 2005. *Practical English Usage*. 3rd ed. Oxford: Oxford University Press.
- 綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘. 2018. 『ロイヤル英文法』(改訂新版) 東京: 旺文社.

辞書

- Longman Dictionary of Contemporary English*. 6th ed. 2014. Harlow: Pearson Education Limited. [LDCE⁶].
- 『ジーニアス英和辞典』第 5 版. 2014. 東京: 大修館書店.
- 『リーダーズ英和辞典』第 3 版. 2012. 東京: 研究社.

スクリーンプレイ

『JFK』1994. 名古屋：スクリーンプレイ出版株式会社.

『トレインスポティング』2000. 名古屋：スクリーンプレイ出版（株）.

『エバー・アフター』2000. 名古屋：スクリーンプレイ出版（株）.

『評決』1997. 名古屋：スクリーンプレイ出版株式会社.

『サンセット大通り』2011. 名古屋：株式会社フォーイン スクリーンプレイ事業部.

『英国王のスピーチ』2015. 名古屋：株式会社フォーイン スクリーンプレイ事業部.

コーパス

BNC: The British National Corpus

COHA: Corpus of Historical American English